



発行 KOA 森林塾 (事務局) 0265-70-7065
 編集 早川清志
 題字 島崎洋路

『地拵え二十日、植林半日』
 通年コース第一・二回報告『植林・樹木分類』

空模様を気にしながらの植林も昼過ぎには終わり、一時には山を降りてしまいましたが、やはり心残りな地こしらえを体験していただけなかったこと。これは結構面白



傾斜は20°~25°、比較的植えやすい場所でした

白い作業です。例えて言うならゴジラが食べる海苔巻を何人かで力を合わせて作るようなもので、刈った灌木をくるくる巻きながら斜面を転がし、縋にするとというもので

す。タイミングが合わないとその大海苔巻に巻き込まれて、そのまま干瓢になって転がり落ちたりするからさあ大変です。

伊那市、上伊那郡周辺で植林の実践に使わせていただけるような山林がほとんど見当たらず。数年前に山火事になりそのまま放置されていた、伊那市下殿島区の区有林一町六反を森林塾の演習林としてお借りし、植林地の確保ができたのでした。

そうはいっても十数年の間にはエゴノキやクロモジ、クリ、シラカバ、リョウブも背丈の倍以上には伸び、日当たりの良い南斜面にはクマイチゴやイヌザンショウなどの厄介もの、それらにびっしり覆われ、中を歩くのもままならないようなところを綺麗な坊主頭にするには並大抵ではありませんでした。おまけに地面には焼けて倒れた一抱え以上のアカマツも折り重なっていましたし、間に連休を挟み、間に合うのだろうかとは一時は心配でした。

鳥崎先生とインストラク



今年も宜しくお願いします

ターの皆さんに手伝ってもらい今年は何とか三反歩ほど地こしらえができて一安心。皆さんにも、下草刈りの時にも地こしらえの一端を体験してもらおうかとも考えています。

やはり人数がいると目に見えて作業が進み、子苗が斜面に並んでいくから気持ちが良い。保科先生に言わせれば八

百本は四、五人分の仕事ですが、途中大休止も交えながら二時間半ほどで植え終わりました。あごをだし気味の方も見られましたが、とまれ、第一回目の、慣れない山仕事お疲れ様でした。

森林塾参加者は今年も個性派揃い。大いに盛り上がった交流会の報告は後日に回すと

して、さて翌日は樹木分類。イントラのじよんのび藤原も言っていました。名前を覚えて、性質を覚えて、相手を

知る。不要樹種として切ってしまう場合であっても、これは山仕事に携わる者にとって



左側のようなジャングルを刈って地拵えしました



昼近くなり、さてもう一息です



植林完了。800本の苗が並んでいます



準備体操は怠りなく



昨年にひきつづき今年も参加してくれました



トンガはキーボードより扱い難い?

分かれて分類の実習。いい線いってます
11時15分 小屋に戻り坂野による植物標本の作り方。ン?声が変!!
12時 車に分乗して桂木場登山口の駐車場へ。ここでお昼。下平さん天然の工ノカタケ発見。通ですな。この辺りミツバツジが満開で里と

は礼儀ではないでしょうか。樹種が分からなければ森林の調査にも不便をきたす。できれば近場にある有用樹種といわれる一、二十種は最低限分かるようになりたいものです。
覚え方にも色々な方法があります。葉っぱなどが食べられるもの、食べられないもの。鎌の柄などに使える木。

自分との関わりで覚えられれば手っ取り早いかもしれませんが。また検索図鑑にもそれぞれに特徴があります。使いやすい図鑑を見つけたのも早く覚える方法かもしれません。



保科先生お得意のポーズで「早くおいでよ」

通年コース
第一回 植林

5月10日(金)

8時30分 鳥崎先生の山小屋に集合。先生方のあいさつ。オリエンテーション。
朝からの雨も一時止み何とか植林くらいはできそう。さあ、今年も通年コースがいよいよ始まりました
9時30分 分乗して伊那市西春近の真向沢地籍にある下殿島区有林へ。作業道は乗用車では入れず、車を降りて十分ほどの歩き
10時30分 保科先生の植栽方法の説明。体操。作業開始。下から上。
12時30分 途中休憩をはさ

みほぼ植え終えた。天気が心配なので小屋に戻りお弁当という事になった。鳥崎先生の樹木分類が始る
1時 一束の残りが発見され、とつつきに植え、分乗、小屋に戻る
1時30分 恒例の豚汁が、椎原、石原のはらはらべアによつて用意されていた。すきつ腹に美味。この頃また雨が降り始める
2時15分 参加者の自己紹介開始。PR合戦の様相を呈してきた
4時 ミスホ鋼機の荒井部長さん登場。ナタ、ノコやヘルメットなどの説明。やはりこの三点は自分のものを用意したいところで

す。本日終了
5時30分 交流開始
9時30分頃 一応終了。解散。しかしこの後宴は延々何時間か続いたらしい。大丈夫?
第二回 樹木分類
5月11日(土)
8時30分 鳥崎先生の山小屋に集合。先生のあいさつと本日の予定説明。夜の来の風雨は相当激しかったが今その心配はほとんど去り、午後は信州大学の西駒演習林の入り口くらいまでは歩けそう。じよんのび藤原の検索分類入門。今年の塾生は簡単に引つかりそうもない
9時40分 小屋西で四班に分かれて分類の実習。いい線

比べて約一ヶ月遅れ。でも去年よりは随分早い
12時30分 出発。歩きながら鳥崎先生の樹木分類の話をおかないととも入りきらないね。標高千四百を少し超えた檜小屋で休憩。ニリンソウの絨毯満開。食べてはいけないトリカブト、コバイケイソウ、ハシリドコロ。ここで折り返す。帰り道、桃澤さんとイントラ後藤、ミズナをお土産に。抜かりない
4時 小屋に戻りあいさつ、解散。気をつけてお帰りください
参加者/井上さん、江尻さん、尾形さん、長部さん、梶原さん、北澤さん、鬼頭さん、木村さん、黒岩さん、小泉さん、小山さん、斉藤さん、佐藤さん、下平さん、館野さん、坪内さん、成田さん夫妻、長谷川さん、塙さん、洲上さん、松田さん、宮沢さん、山下さん、山田さん、和辻さん、風見さん、栗林さん、長坂さん、桃澤さん、山浦さん、池田さん、岡田さん、塩田さん、芳賀さん
講師/保科先生、鳥崎先生
スタッフ/石原、大野、川島、後藤、椎原、中村、平林、藤原、坂野、早川
(いずれも一日or二日間)



里より1ヶ月ほど遅い。クロモジの花



さて何枚？ 何種類？ どれが1枚？



後藤チームの検索風景。チームワークは如何に？

次回以降の予定

第三回 測樹

5月25日(土)

森林調査の一環です。どんな木がどれくらいあるか。種類、年齢、高さ、太さ、材積(幹だけの体積)を実際に測って(調べて)みましょう。伊那市ますみが丘平地林の一角で調べる予定です。8時30分 島崎先生にの山小屋に集合。お弁当と雨具、筆記用具と電卓も忘れずに。測樹はスタッフが担当します

第四回

施業診断、林木評価

6月8日(土)

測樹でのデータをまとめます。そしてそれをもとに、さ



身近な200種ほどを覚えればまず合格

第六回 下草刈り

6月22日(土)

植栽木が、他の灌木や草に覆われないように周りを刈ってあげます。今年の植林地を予定しています。また地帯も体験してもらおうと考えています。担当は保科先生

第五回 伐木造材

6月21日(金)

いよいよチェーンソーを使つての伐倒、玉切りです。またメンテナンスの方法の説明もあります。場所は未定。担当は保科先生です。



檜小屋手前の丸木橋。半腐りでそろそろ寿命





テーマは森 吉柴 康雄

三年前の九十九年秋、「Bコース」に参加しました。宗教法人の記者として、環境問題取材して会員向け情報紙に紹介していた私は、「今度のテーマは森だ!」と思いつき、その年の十月、東京都松原村の田中惣次さんの森で間伐を体験。その後、浜田久美子さんに話を聞いて、早速、「Bコース」に参加、わずか三日間でしたが、島崎先生、保科先生、スタッフの皆様



さまにお世話になりました。その後、仕事を離れて、東京・西多摩方面で森づくりの講座やグループの活動に参加。いわゆる、森林ボランティア”として活動するようになり、昨年初め、樹恩ネットワークの「森林ボランティア青年リーダー養成講座」に参加してから、その卒業生十五〜二十人の仲間と活動のフィールドを探しているところです。

そんな今年三月、森づくりフォーラム主催の「森づくり実践講座」に参加すると、森林塾のスタッフであり、「山仕事師」として活躍されている後藤さん、川島さんにお会いしました。

後藤さんを見たとき、はじめは「東京の森林ボランティアに寝返ったのか?」と思いましたが、そうではなく、お二人は広葉樹の施業を学びにきていたそうで、そのとき、今回の「専門コース」をご紹介

「Bコース」のときは首都高で大渋滞に巻き込まれましたが、今回は、途中、双葉で朝食をとる余裕で、八時に研修所に参加者のうち一番に到着。私にとっては懐かしい!先生やスタッフの皆さまにお会いすることができました。

三日間では、とても新たに多くのことを学ばせていただきました。

今まで、間伐では木の重心なんてろくに考えず、ただ倒したい方向にロープをかけて伐採していましたが、径が大きくなるほど、その重心の見極めがとても大切になること。そして、必ずつるを残すこと(受け口と追い口を切り過ぎてつるのないことが多いのです)。そして、チェーンソーの持ち方(注意しているつもりでも力が入り、結果、チェーンソーが地面に水平に入らないのです)等々...

でも、初めてチルホールを使わせていただき、「なんかプロっぽいな」と単純ですが感激。三日間、十一人で、二〇〇本近くを伐採したのでしようか? 将来、伊那市の公園予定地ということですが、みるみる林内が明るくなり、こんなに切ってもいいの?というぐらい切らせていただきました。

交流会では、島崎先生の森

を守ることに命をかけておられるお話や、若かりしころ結婚に至るまでの秘話までも聞かせていただき、こちらもとても感激しました。

またAコース三年生、四年生の参加者の皆さんとお会いできたのもうれしかったです。

昨年七月、私の勤務する生長の家では、環境マネジメントシステムである「ISO14001」を、宗教界では世界でおそらく初めて取得。「天地一切の生命を礼拝する」という環境方針のもとで、省エネ、省資源はもちろんです、環境にプラスとなる活動を行っています。

昨年八月、富士河口湖近くで、その会員の中高生二十人を対象に、下草刈りや伏せ焼きを実施。また松原村で大学生二〇〇人による下草刈りを計画しましたが、惜しくも台風二十一号の直撃を受けて中止となりました。

いずれも、私が森づくりに関わっているということ、学生とフィールド所有者とのコーディネートもさせていた森づくりは、「生きてる地球」を守ってゆくための大切な行動であるという自覚を深めて、職場や友人など多くの人に興味を持ってもらいたいと思っています。

「専門コース」では、さらに今

年の夏と秋の二回六日間お世話になります。

東京では、特にチェーンソーを主体とした森づくりの活動はありません。今回、私も「将来どうしたい」という考えもなく、ただ勢いで参加しました。けれども、今後、素人としては、相当なレベルまでチェーンソーの技術をスキルアップさせてしまう以上、そして誇り高き!「専門コー

【出張先で見える山林の惨状】
仕事柄全国各地に出張へ出掛けると沿線各地で暗く鬱蒼とした山林、疲弊し、痛々しく崩れている山肌が至る所で見受けられる。
悲しい想いが去来する。それを見る度に沸々と何かが胸に湧き出る...。
日本には豊かな「森林」が身近に有りながら、それを蔑ろにしてしまわなければならない現実がある...。

【鈴鹿山系で愛犬との散歩】
お話しします。



【鈴鹿山系で愛犬との散歩】





これまで、休日になると我が家の愛犬(もも&ジョン)といつも鈴鹿の山麓へ遊びに行き、ユックリした時間を過ごすことが日課になっていった。山に入ると時間が尽きることがない程、いろんな発見があり、百あれば百通りの森林の多様さに驚かされることばかりで、そこには、無駄なものはない！

一步、足を踏み入れたとたんに静寂が辺りを包み、聞こえてくるのは鳥のさえずりと微かにそよぐ木の葉の囁き、どこからか清水の流れる音、そこは別世界…。

日頃の喧騒と忙しい生活が嘘のような、我にかえるこの上ない至福の時間 あー気持ちいいー！

【鳥崎先生との出逢い】
数年前、新聞の隅っこに「山を守る人」と言う様な写真記事に眼が留まった。そこには、老いてもなお山造りの仕事と後継者育成をしているとあったように記憶している。

それから二年間ほど、その記事が頭の隅にチラチラ気になりながら、日々の仕事に追われていた。たまたま、昨年の春に四日市の図書館で、「山造り承ります」という本が眼に入り、手に取りパラパラと見たところ、何か心に感じ入るものがあり、早速、本を借りて通勤電車の行き帰りに読んだ。そしたら、あの時の新聞の人がそこに居るではないか！ 更に読む程に自分の思いのたけと共感することしきりでした。

ナント、無謀にも鳥崎先生宅に電話を架けて話しをしたら… ピッタリと会話がハマって、ますます親近感が湧き、その年の森林塾B(秋)コースへと、ためらいもなく行くことになったのです。

【文化の伝承】
これまで私は、柳田国男氏や谷川健一氏の民俗学著書から民俗文化・地名の由来・文化の継承などを学び、後世に伝えるべき日本民俗文化を如何に橋渡ししていくのかと考えるようになった。(大袈裟〜笑)

その答えが「山造り」だった。『そうだ！山の仕事を通じて、祖先以来の知恵の集積文化を伝承しよう。そして、山に元気を取り戻そう！』という気持ちが湧き立ち、居ても立つてもいられなくなった。

【新しい仲間づくり】
この森林塾に参加してからというもの、毎週どこかの山に入っては山仕事三昧です。地元三重のグリーンボランティア「森林づくり三重」の一員として山仕事をしたり、いろんなグループの会や行政・森林組合・NPO団体などの研修会に参加して、ネットワークづくりもしています。

ただ正直なところ「ボランティア」という言葉には、些か抵抗感があります。私の場合は、そんなんじゃないかと、山が元気になってくれれば良い！の一念だからです。

三重県下や他府県で、いま、ご自分が参加している森林ボランティア活動に物足らなさを感じている皆さん！現在私は、もすこし力と技を使う活動を目指した「山造りグループ」を創る準備をしています！ 我こそはと思う人、この指トマレ！ 老若男女、犬猫ウサギ?? どなたでも問いません。夢を抱く山守仲間になりませんか？

く、力を入れて参加しているフィールドをここで、チョットだけ紹介しちやいます。それは、『足助きこり塾』です。『足助唯一の林業家と森林塾卒業生有志と仲間たちで創る未来派山造りグループです。山と自然をこよなく愛するプロの林業家、人呼んで「スーさん」の元で、生の林業体験、林業技術・育林指導、伐木材の利用から、はたまたピオトープ再生、アマチュアの森づくりなどなど、様々な事柄を私たちと共に、『二十一世紀の森トピア』を目指して、月に一回、足助の山奥に集い、山造りを楽しみながら学んでいます。

「日本の山が危うい！」と山や林業の明日を憂える人、自然的生活を渴望する人、とにかく山や自然が大好きな人たち などなど…

『足助の森に集合です！』

未だ、一部工事中ですが、HPで掲示板が利用できます。一度ご覧下さい。URLは <http://page.freett.com/asukekikori/index.html> です。

以上に掲げた各会への参加やご質問は、左記の問い合わせ先までご連絡下さい。

「森林塾卒業生」大歓迎！

又、これまでに森林塾で学んだが、活動するフィールドがないと諦めていた方や、更

に奥深い山造りを追求したい方も、どしどし「参加」或いは「お問い合わせ」下さい。

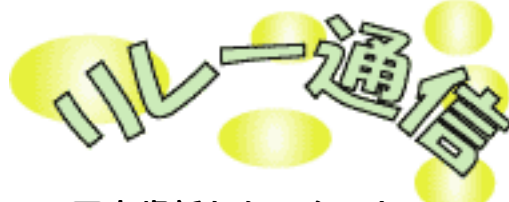
【問い合わせ】
連絡先 鬼頭志朗
〒512-0933
三重県四日市市三滝台
2-23-115
mail
shiro.kitoh@nifty.com
携帯(J-Phone)
090-1787-1620

【通年コース第一回目を終えて】

保科・鳥崎両先生、インストラクターの方々、一緒に塾生の皆さん、紙面をお借りしてお礼申し上げます。今回の発見ポイントは、『次の仕事が出来よう』、今の作業を能率的にどうこなすかを考える』でした。

今年は、更に林業の極みを追究すべく、実践に力を入れていきます。これからも、宜しくお願い致します。

(^ ^ ￥



五十歳新たなスタート 小泉 辰也

今年の五月十九日に満五十歳になる小泉 辰也と申します。今年やっとKOA森林塾に仲間入りさせて頂いたきます。一昨年集中(B)コースに申し込んだのですが、急用で不参加、昨年は、通年コースに抽選漏れで無念の不参加、代わりに長野県の「信州きこり講座」を受講しまし

た。そんな経過もあり、実践技能は全く有りませんでした。今年、KOA森林塾新設の「専門コース」と「通年コース」両方に申し込んだところ、早急に早川さんから「リリース通信」への投稿要請がありました。筆不精でまとまりませんが、自己紹介を中心に今年五十歳を契機に新たに森林関係の仕事に転職する思い等を書いてみたいと思っております。

偶然なのですが、昨年度の「森林塾通信」第十七号(三月八日)の「リリース通信」に登場した「平林 和彦さん」と同じ会社にいました(別事業部です)、さらに同じく「選定期年制度」を活用し、この五

た。そんな経過もあり、実践技能は全く有りませんでした。今年、KOA森林塾新設の「専門コース」と「通年コース」両方に申し込んだところ、早急に早川さんから「リリース通信」への投稿要請がありました。筆不精でまとまりませんが、自己紹介を中心に今年五十歳を契機に新たに森林関係の仕事に転職する思い等を書いてみたいと思っております。

偶然なのですが、昨年度の「森林塾通信」第十七号(三月八日)の「リリース通信」に登場した「平林 和彦さん」と同じ会社にいました(別事業部です)、さらに同じく「選定期年制度」を活用し、この五

月二十日で退職します。自分分は、わずかな農地がありますので、野菜・米を自給しながら森林整備の仕事へ転職する計画です。

転職の動機は、色々な思いや、状況が重なり決断しました。森林整備を選択した理由は、住んでいる地区で、地域総出の山の整備を、年二回ほど何年か続ける中で、体はキツイのですが何ともいえない充実感や爽快感を感じた事です。

また、今までの仕事は、金属相手の仕事でした。金属は金属で素晴らしい特性や機能を持っていますが、「木」と言う材質にも興味があり、詳しくは勉強してはないのですが、法隆寺のヒノキは建立以来千三百年たっているのに削るとヒノキの匂いがするそうです。「木」の材としての寿命は樹齢と同じ年数は持つと言う



話も聞きました。「木」は材自体が暖かく、特性的にも素晴らしい材料だと思います。そんな「木」と関わる仕事をしたいと考え、自分の年齢・性格・体力や前段の山仕事の充実感などと、鳥崎先生の「山造り承ります」などから日本の森林の状況を知る中で人生の後半を、利益や効率化の追求だけでなく、ほんの少しでも、環境や、将来の人の為に貢献できればと考えてたしたいです。

前段が長くなってしまいました。簡単な自己紹介です。氏名・年齢・仕事は、前記参照
趣味：下手な木工や薪割り等々木に関わる事・その他色々な事を少々・タバコ：未経験・酒：種類の嗜好特に無、量的には、二十歳前後のビールコップ一杯から現在成長過程で、最近では頭打ち傾向が見られますが、現在ビールならば大瓶二本位か??
家族構成：配偶者無し・娘2名(成人済み)・母約一名です。
居住地：長野県諏訪市。

話は、変わりますが、私の住んでいる諏訪には、「御柱祭」が虎年と猿年に行われます。私は、住んでいる地区の関係で諏訪大社の上社の「御柱」に参加します。八ヶ岳の山麓から、大きな柱では胸の高直径で一メートル弱の木の木を、御神木として人力のみで、四月と五月の二回にわけ諏訪大社まで引き付け、社の四隅に立てます。
上社の場合は、その年の二月に雪の中で伐採が行われます。ご神木ですので人力の斧と鋸で伐倒します。伐倒時の迫力は、中々のものです。
その年は、春には、諏訪大社の御柱で、秋には、各地区の神社の御柱があり、一年を通して御柱祭が行われています。

今回の御柱は、再来年に行われますが、早い地区では、そろそろ準備の集會等が始まる所もある様です。「木」に関わるお祭りです。ので、機会がありましたら、見に来て頂きたいと思えます。

KOA森林塾には、ここで専門コース三日間と通年コース二日間の五日間参加しましたが、先生やスタッフの皆さん、また集まっている塾生の皆さん全体が、親切で雰囲気がよく非常に楽しく勉強できました。これから先が非常に楽しみです。一年間(以上)宜しくお願いいたします。

山小屋使用のお願い

森林塾では鳥崎先生の御好意で山小屋を使わせていただく場合が多々あります。また、遠くからおいでの方もあり、他団体などの先約があるとき意外は、開催前日の宿泊もどうぞとおっしゃってくださいました。そこで我々で決めた事をした上で使わせていただくことになりました。
ゴミは必ず持ち帰ること。ここには収集車は来ません。コンビニ弁当やペットボトル等置いていくと誰かが家に持ち帰り始末しなければなりません。
食材を残さない。簡単な自炊ができます。その際に余った豆腐やキャベツを半分とか冷蔵庫に残されても困ります。ただしアルコール類や、缶詰などは例外ですが誰かに申し送りしてください。また、生ゴミはコンポストに台所用品や食器はきれいに洗ってもとの場所に。風呂や部屋も使用後掃除。
宿泊した場合、燃料代やシーツのクリーニング代の足しにという気持ちとして一泊千円で、と仲間うちで決めました。神棚の宿泊名簿にお名前を記入してください。
「来た時よりも美しく」をお願いします。詳しくは現在の住人のイントラ椎原か早川にお尋ねください。

コラム

「雪どけの中にしたたる柳かな」
花ちる岩の
「木天蓼や
たまり水」
「我宿の
桐一葉」
淋しさおもへ
鱗を枝状にしたような葉の針葉樹で、葉の裏に、白いY字があるのがヒノキ、かわい
い白い蝶型があるのがサワ
ラ、純白の米を封入したようなアスナロ。カッパの足跡を丸くしたようなダンコウバイ。
葉を筏に、花を乗せたハ
ナイカダ。クルミが採れるオ
ニグルミ。将棋盤にはカヤの
板。クロモジの枝を削って和
菓みに抹茶。奥女中の香りの
花のコアジサイ。風にそよそ
よソヨゴがそよぐ。
カラマツの、ホウノキの、カ
ツラの新緑の葉の色が好き。
マンサクの、コブシの、ツク
バナウツギの花が好き。シラ
カバの、リョウブの、ブナの
樹肌が好き。ケヤキの、トチ
ノキの、スギの樹形が好き。
実を食べるなら、イチイやミ
ツバアケビやモミジイチョゴが
いい。ヤマザクラの、アブラ
チャンの、ハルニレの果実の
形が好き。オオカメノキの、
ナナカマドの、ミズナラの色
づいた葉が好き。マユミの、
コナラの、マツブサの種が好

き。コゴメヤナギの、イヌシ
デの、エゴノキの冬芽が好
き。
マイ公園は小布施ハイウエ
イオアシスと新宿御苑。マイ
植物園は小石川植物園と東山
植物園と雪国植物園。マイ街
路樹は善光寺参道。写真と樹
木標本でマイ図鑑を作って、
今まで名を知らなかった樹々
たちにあいさつがたら森へい
こうと思う。
「マチャブチャレ」
「マチャブチャレ」
専門コースに続いていよいよ
通年コースも始まりまし
た。植林、樹木分類の時は天
気が今ひとつで、これが伊那
谷の春、というところを感じ
ていただけずに残念でした
が、これからは山に入って本
当に気持ちの良い季節です。
一年間よろしくお願いま
す。

投稿大歓迎。ご意見、ご質問、ご要望、事務局まで。
TEL 0265-70-7065
FAX 0265-70-7994
E-mail:
ki-hayakawa@koanet.co.jp
sh-sakano@koanet.co.jp
mi-tsuboki@koanet.co.jp
携帯:0902-53-26375(開催日)
H.P.http://www.koanet.co.jp

